

# 緑のセンターだより



No.174

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）  
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626  
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 30 年 10 月 1 日

## 講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

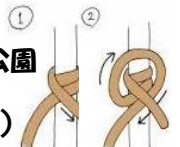
### 「庭木の冬囲い」(実習)

とき 平成 30 年 10 月 27 日 (土)  
午前 10:00~12:00 定員 20 名  
講師 緑のセンター所長



### 「庭木の冬囲い」(実習) 場所:常磐公園

とき 平成 30 年 10 月 27 日 (土)  
午前 10:00~12:00 定員 20 名  
講師 常磐公園所長



### 「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 平成 30 年 10 月 28 日 (日) ●1000 円  
午後 1:30~3:30 定員 20 名  
講師 緑のセンター相談員



### 「ブドウと小果樹のせん定と栽培管理」

とき 平成 30 年 11 月 2 日 (金)  
午後 1:00~3:00 定員 50 名  
講師 上川農業改良普及員センター  
普及指導員 岸本結香さん



### 「押し花カレンダーを作ろう」●1000 円

とき 平成 30 年 11 月 11 日 (日)  
午後 1:00~3:00 定員 20 名  
講師 押し花サークルつくしんぼ代表 加藤迪子さん



### 「木の实などを使った壁飾り」●¥500

とき 平成 30 年 11 月 18 日 (日)  
午後 1:00~3:00 定員 10 名  
講師 緑のセンター相談員



### 「クリスマスからお正月の寄せ植え」●2500 円

とき 平成 30 年 12 月 9 日 (日)  
午後 1:00~3:00 定員 20 名  
講師 フラワーマスター 山本裕美さん



### 「木の实などを使ったミニリース」●¥500

とき 平成 30 年 12 月 16 日 (日)  
午後 1:00~3:00 定員 10 名  
講師 緑のセンター相談員



## 展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

「木の实・草の実写真展」10 月 20 日~11 月 4 日 ♥待ってます!  
「神楽岡公園の自然写真展」12 月 4 日~12 月 28 日



第 34 回「旭川市の公園」絵画展

♪ 場所：イオンモール旭川西

「ペットボトルの寄せ植え」

無料体験講習会

日時：10 月 1 日 (月)

①9 時~12 時 ②13 時~16 時

※①②先着 25 名様限定※

### 【休館日のご案内】

4 月~10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11 月~3 月は毎週月曜日が休館日です。( " )

# 〈園芸の基礎知識〉 植物の花成と開花

## ～ バーナリゼーション ～

### ■バーナリゼーションとは

植物の花芽形成は、日長・温度・生育量など種々の要因が関係しています。そのうち、低温による花芽形成の誘導を春化といい、人為的に低温に遭遇させることで花芽誘導を行うことを春化处理(バーナリゼーション)といいます。

### ■種子バーナリゼーション

種子が吸水し発芽を始めた直後から低温によって春化が誘導される現象であり、催芽種子以降のステージでの低温感受性として定義されています。低温刺激を感じ

る器官は葉ではなく、種子胚とか芽生えの茎頂などの分裂組織です。多くの秋播きの植物がこのタイプを示します。低温刺激には0～5℃で1～3か月必要とします。

### ■緑植物(体)バーナリゼーション

これに対して春化に一定の基本栄養成長を必要とし、発芽種子や幼苗の段階では低温条件下でも春化が起きないものを緑植物(体)バーナリゼーション型と呼び、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、ネギ、タマネギ、ニンジン、ゴボウなどが属します。しかし、宿根草や球根の場合は大体初夏から秋に翌年に咲く花芽の形成を終わっています。これらの植物では、形成された花芽が冬の低温刺激で成熟し、春になって気温が上昇すると開花します。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「植物学」超入門、農山村漁村文化協会「最新農業技術事典」ほか)

表 ツボミをつくるために、冬の寒さを必要とする植物

・秋に発芽したあと芽生えが冬を越して春化处理を受け、翌年の初夏に結実する植物 コムギ、オオムギ、ライムギ、ダイコンなど
・春に発芽し、成長した茎や葉が冬を越して春化处理を受け、翌年に開花、結実する植物 タマネギ、キャベツなど
・花が咲く前の冬に春化处理を受けている春咲きの多年性植物 スミレ、サクラソウ、ナデシコなど

## 緑の相談 QアンドA (48)

テッセンをトレリスに這わせて育てています。毎年秋の今頃トレリスから下ろす時にツルを切っていますが、花のつきがよくないです。ツルの切り方を教えてください。



「テッセン」は、本来「クレマチス」の原種の1つの呼び名なのですが、昔からクレマチス全般を指す代名詞として広い意味でつかわれることが多いです。クレマチスは「つる植物の女王」と呼ばれ、キンポウゲ科センニンソウ属の多年草に分類されており、世界に300種ほど分布しています。日本にもカザグルマなど20種ほどが自生しています。花卉は既に退化し、私たちが美しい花のように見えているものは、じつは萼片で、園芸的に便宜上「花」と呼んでいます。クレマチスは、花芽のつき方で次の3タイプに分類することができ、それに合わせた「花後」と「秋(冬)」のせん定を簡単に説明します。

①旧枝咲きタイプ(モンタナ系や早咲き大輪系の一部など春に前年伸びた枝の節に新芽を伸ばし蕾付)

…〈花後せん定〉花首下1節下で切る。〈秋せん定〉せん定しない。

②新枝咲きタイプ(テキセンシス系など一番花のあと二番花と咲き続ける四季咲き性)

…〈花後せん定〉一番花8割開花後根元から2節残し以降弱せん定。〈秋せん定〉太い芽の上で切る。

③新旧両枝咲きタイプ(テッセン含むフロリダ系など前年枝から出た芽が4～7節で開花後更に開花)

…〈花後せん定〉任意の箇所まで強弱付けて切る。〈秋せん定〉太い芽を確認し芽の上で弱せん定。

(参考資料:日本放送出版協会「NHK 趣味の園芸よくわかる栽培 12か月 クレマチス」、同「別冊 NHK 趣味の園芸クレマチス」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー(Q&A)」を掲載しています。こちらもご利用ください。

# 植物の病害虫

## その45「アズキノメイガ」



幼虫



成虫



越冬幼虫

### 1 寄生しやすい植物

アズキ、インゲンマメ

### 2 被害

若齢期の幼虫は頂芽や花を加害し、ついで葉柄や茎を食害するため、被害部から折損したり枯れたりします。そのため、着莢数の減少、不稔流の増加、一莢粒数、一粒重などが減少します。さらに幼虫が莢に潜入して内部を食害するので、口欠粒や変色粒を生じ品質低下の原因になります。幼虫の食入孔からは褐色の虫糞やノコ屑状の咬み屑が排出される特徴があります。インゲンマメでは一般につる性の被害が多くなります。

### 3 生態

北海道では普通年1回発生します。老熟幼虫態で小豆莢や体を収容できる太さの雑草の茎中、つる性インゲンマメの場合は手竹の中などで越冬します。越冬幼虫は6月下旬頃から7月にかけて蛹化し、7月上旬～8月にかけて成虫となります。蛹化には水分を必要とすることから、春季の適度な降雨と高温は発蛾を早めます。成虫の発生最盛期は年によりかなり早晚がありますが、十勝地方では7月中旬～下旬が一般的です。蛹期間は2～3週間です。成虫は夜行性で、日没頃から活動が盛んになります。羽化後数日を経て産卵を始めますが、卵は葉裏に数粒～数十粒を一塊として魚鱗状に産みつけます。卵期間は5～7日でふ化した幼虫は頂芽に移動し、次に花蕾に移動して長期間食害します。成長した幼虫は莢茎を加害し、5齢に達すると停食し、そのまま小豆の莢にとどまるか、あるいは脱出して適当な潜伏場所を見つけて越冬します。

### 4 防除法

①被害莢茎を早期に処分します。②菜園の周りの雑草を清掃します。③つる性インゲンマメでは手竹をくん蒸をします。④、産卵盛期から7～10日間隔で2回くらい下記薬剤を散布します。

MPP 乳剤「商品名：バイジット乳剤」1000倍、MEP 乳剤「商品名：スミチオン乳剤」1000倍、PAP 乳剤「商品名：エルサン乳剤」1000倍、PAP 乳剤はインゲンマメにも使用できます。農薬の使用に当たってはラベルをよく確認してください。



## シコンノボタンを楽しむ

ノボタン科 シコンノボタン属

熱帯アジアからブラジルに分布する熱帯性の低木で、枝先に大輪の美しい花をつけます。シコンは「紫紺」で鮮やかな濃い紫色の花に由来します。

花は一日花ですが人目を引く鮮やかな花(背景のピンクはブーゲンビレアの花)を夏から晩秋にかけて次から次へと咲かせるのが魅力です。その名にノボタン(野牡丹)の名がありますが、近縁種ではあるものの

分類上は別物とされています。北海道の寒さには弱いので、普段は鉢花として観賞されています。

鉢物として園芸店で見かけるコンパクトな株は、矮化剤で処理されていることが多く、翌年には矮化剤の効果が薄れて、勢いよく育つようになります。

……………く 失敗しない管理のコツ ……………

- ① 5～9月は戸外で育てますが、耐暑性がやや弱いので、真夏は軽い日よけをするか明るい半日陰に移して涼しく管理します。耐寒性もやや弱いので、冬は日のよく当たる室内の窓辺に置いて育てます。
- ② 水やりは、生育期(4～10月)に水ぎれすると花もちが悪くなるので鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。晩秋から冬の水やりは、やり過ぎが根腐れの原因になるので鉢土が十分に乾いてから与えます。
- ③ 肥料は生育期間中、月に1回緩効性肥料を置き肥するほか、液体肥料を2週間に1回程度併用して施します。その他の期間に肥料は与えません。
- ④ せん定は、冬越しした5月上旬に枝の1/3を残して切り詰め、細い枝などは基部から切りとって、一回り大きな鉢に植え替えます。用土は弱酸性を好むので、赤玉土5、腐葉土3、ピートモス2の混合土が適します。鉢を大きくしたくない場合は、枝葉を半分程度切り落とし、更に根鉢を1/3～1/2落として新しい用土で植え替えます。さし木(5月～6月に枝の先端10cm前後に切ったもの)で殖やすことができます。

## 展示室の植物 (81)

### ホテイソウ

学名: *Eichhornia crassipes* ミズアオイ科 ホテイアオイ属

水草を水槽で楽しむブームが来る前から、金魚やメダカの水槽や池などの水草として知られる夏の植物です。原産地は南アメリカで、葉柄の中程にふくらんだ浮き袋で水面に浮かんで生育するのが特徴です。夏に淡紫色の花を咲かせるので観賞用に栽培され、別名をホテイアオイ、ウォーターヒヤシンスと呼ばれています。本来は種子で繁殖する一年生雑草なので、冬になると枯れてしましますが、緑のセンターの温室では、温度と日照が確保されているので一年を通して姿をみる事ができます。

また一方で、葉が5～7枚になると匍匐茎を伸ばしてその先に子株をつくり次々に増殖します。生育環境が整うと1個の親から数千個の子株に殖えるといわれ、爆発的に繁殖して地域の生態系を破壊することもあることから世界中で環境を破壊する「青い悪魔」とも呼ばれています。

